本部報告目次

一、闘争報告

二、解消問題に于する報告

三、財政報告（説明畧）

附、東京支部聯議案

第一部　斗争報告

一、結党直後――借家問題に于する斗争

労農党の結党前後から、各地に自然発生的な家賃値下運動が捲き起り、それが忽ち燎原の勢ひで全国に拡まった。この無産市民を中心とする斗争に対して、党本部は直ちに、左の知き見透をたてて指令を発した。

家賃値下げ運動は、それ自体として見れば無論、極めて程度の低い運動であって、ブルジョア社会そのものに対する全面的否定に立脚するものではない。無産市民は現在の彼等の生活の極度の窮迫化から何とかして抜けだそうとして、先づ最も手軽な道を、家賃値下げ運動に発見したのだ。ブルジョア政府は現在、この運動を個々の家主と個々の借家人との間の斗争に、即ち単純なる経済斗争におしこめやうと極力努力してゐる。そして、自からは公平なる第三者を装つてゐる。整視ナまでが借家人の味方をしてゐるのだ！、更に社会民主々義者共は、支配階級のその意図に調子を合せて、この運動を極力ルブル的に指導しようとしてゐる。彼等はあれこれの悪家主の強慾を叫んでも、無産者居住権の獲得の問題には一言も觸れない。

我々はこの運動を飽まで、プロレタリアートの立場から指導すべきで、我々は、家賃の値下げそのことのために極力斗争すると全時に、全運動を「無産者居住権の獲得――」の中心スローガンに結びつけねばならぬ。無産